

OISCA

— 人と育む、地球といきる —



(TOPIC)

フィリピン
「子供の森」計画の現場を歩く

JULY | 7
2024

今月の OB & OG

日本で学んだオイスカ研修生の今を紹介します。

研修を通じて、
人生の成功に必要なことを
全て学びました！



FILE
No. 02

マリア・ラウドレス B・パロナ
(愛称：ピンピン)

- 出身国 フィリピン
- 研修歴 中部日本研修センター／
工業研修コース (1986年4月～87年3月)
- 現在の職業 小売業・不動産業



豊田市に移転した中部日本研修センター開所式にて
(左から5人目／1986年)

研修センターを盛り立て、地域発展に貢献します！

私は、オイスカの支援者である父が、日本の会社と共同で籐製品に関する仕事を始めたことをきっかけに、1986年に来日し、製品づくりの技術やビジネスについて学びました。日本語の習得や文化に慣れるのにとっても苦労し、実習先の会社での仕事も厳しくて大変でしたが、オイスカの研修で身につけた忍耐力や勤勉さ、時間管理能力、献身精神は、その後の私の人生に大きな影響を与えてくれました。

帰国後、当時のオイスカの駐在員から、オイスカの生産物などを販売する店舗の経営を任せいただき、2004年に夫が亡くなった後も女手一つで3人の子どもを育てながら、事業を拡大してきました。また現在は、地元州政府と協力しながら、ほかのオイスカOB・OGと共にオイスカ・パラワン研修センター維持発展のための支援や、日本からの植林ツアーでの訪問者対応など、センターの取り組みを通じた地域の

貢献活動にも、積極的に取り組んでいます。

私は、オイスカから多くの学びを得ました。仕事も地域のための取り組みも、日本での経験があつてこそできたものです。私が研修でたくさんのことを身につけ、活かすことができたように、これからも未来の世代が貴重な学びの機会を得られるよう、そして世界の環境保全と持続可能な社会の実現に貢献できるよう、世界中のOB・OGで力を合わせていきましょう！



ツアーでフィリピンを訪れた日本のオイスカメンバーと共に
(後列左端／2016年)



祈りとともに

あめつちの 神にぞいのる 朝なぎの

海のごとくに 波たたぬ世を (昭和八年)

各神社の例大祭において奉納される『浦安の舞』は、皇紀二千六百年(昭和十五年)を記念して、この御製に作曲・振り付けされたものです。わが国のことを古くは「浦安の国」とも言いましたように、浦安とは「心安らか」という意味です。

昭和十五年には「西ひがしむつみかはして栄ゆかむ世をこそ祈れとしのはじめに」と詠んでおられます。この頃の日本の歴史を繙けば、昭和天皇の祈り・大御心がひしひしと伝わってまいります。

日清・日露の戦い、そして昭和へと続く激動の時代を生きてきたオイスカの創立者は、昭和三十六年「世界の空は一つ 恐怖なく不安のない地上和楽の世界」の構築を目指して、アジアの同志とともにオイスカを設立しました。その前年(三十五年)、昭和天皇は「さしのぼる朝日の光へだてなく 世を照らさむぞ我がねがひなる」と詠まれました。畏れ多いことではありますが、「国やすかれ 民やすかれ」と祈られる昭和天皇の祈りと創立者の祈りは共鳴するものと感じます。

本年六月、創立者没後五十年を迎えました。この五十年間も人材育成を柱として、人々の命を守る農業や自然環境の大切さを訴えながら、子供から大人まで心を一つに活動してまいりました。然しながら今日、紛争や気候変動の影響で、食料難になるのではないかと報道されています。空腹では世界平和も精神の安定も望めません。今一度原点に戻り、大地とともにある農業。作物を育て、人の精神をも育む農業。そのあり方を考え、国の本である農業を守っていききたいと考えている今日の日です。



OISCA JULY 2024 | 7 Contents

- 04 OISCA NEWS 海外／国内
- 06 オイスカ便り 山梨県支部
- 08 TOPIC ～現場レポート～
フィリピン「子供の森」計画の現場を歩く
- 12 OISCA SQUARE オイスカ歴史さんぽ／OISCAレストラン／お！スヌメOISCA
- 14 INFORMATION 新着情報 ほか

What's OISCA

オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に創立された国際NGOです。現在、41の国と地域にネットワークを持って活動しています。

公益財団法人オイスカは、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開。特に人材育成に力を入れ、オイスカの研修を修了した現地の青年は、各地で地域開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通して啓発活動を積極的に進めています。

OISCAという名称の意味

O	rganization	機構
I	ndustrial	産業
S	piritual	精神
C	ultural	文化
A	dvancement	促進

人間の生存に不可欠な“産業・精神・文化”のバランスを大事にした発展を世界規模で推進していくことを目的として、このように名付けられました。

国内 海岸林再生プロジェクト 卒業論文で海岸林周知度を調査 若い世代への浸透が課題

今年3月に宮城大学を卒業した和泉壮汰さんが、「海岸林に対する地域住民の意識について——津波被災地である名取市海岸林を対象として」と題する卒業論文を書きました。オイスカがプロジェクトを進めている現場が人々にどの程度知られ、愛着を持たれているかを調べたものです。

論文は、名取市北部の閑上地区で昨年10月に開かれた「閑上復興まつり」で和泉さんが参加者29人に直接聞き取り調査をしてまとめました。サンプルが少ないものの、いくつかの傾向が読み取れます。例えば、名取の海岸林の存在を知っていた人はほぼ4割。しかし10代、20代の12人に限

ると「聞いたことがある」が1名で、あとは「知らなかった」と回答。若い世代への浸透は進んでいません。「海岸林への愛着やボランティアへの参加意欲につなげるためには、まず知ってもらわないと」と和泉さん。大学入学時には海岸林のことは何も知らず、ボランティアなどで現場に通う一方、大学の事業構想学群地域創生学類で勉強を進めるにつれ、「海岸林再生の課題」への興味、関心が高まったといいます。

就職後も同じ宮城県内の多賀城市に住み、東北を舞台に働いています。ボランティアにもなるべく参加し続けたい、と話していました。



和泉さんは23年度の学生インターンとして、多くのボランティアと共に現場の活動に参加。培ったコミュニケーション力を活かして地元の方々に聞き取りを行った

23年度
学生インターン
オンライン活動
報告会を実施
しました！



国内 台湾東部沖地震 被災地への想いを形に 周學佑駐日副代表に義援金を手渡す

4月3日に発生した台湾東部沖地震で、花蓮市を中心に大きな被害が出たことを受け、同12日に公益財団法人オイスカの廣瀬道男副理事長が、台北駐日経済文化代表処（東京都港区）を訪問。オイスカ經由で寄せられた地震被害への義援金を、周學佑駐日副代表に手渡しました。周副代表は、支援への感謝とともに「被災された住民の人道支援のため、

4月3日に発生した台湾東部沖地震で、花蓮市を中心に大きな被害が出たことを受け、同12日に公益財団法人オイスカの廣瀬道男副理事長が、台北駐日経済文化代表処（東京都港区）を訪問。オイスカ經由で寄せられた地震被害への義援金を、周學佑駐日副代表に手渡しました。周副代表は、支援への感謝とともに「被災された住民の人道支援のため、



中央が周駐日副代表

今年発生した能登半島地震の際には、台湾から多大な支援が寄せられており、日本国内でも、恩返しとして今回の震災へのさまざまな募金活動が行われています。国際情勢が混沌とする中、日台の絆がますます強まっていくことが期待されます。

海外 オイスカ・インドネシア 在尼日本大使館在外公館長表彰受賞 長年の草の根活動が評価

4月1日、在インドネシア日本大使館が、令和6年度前期在外公館長表彰授与者を発表し、オイスカ・インターナショナルの現地組織であるオイスカ・インドネシアが受賞しました。同賞は、長年両国の友好関係や理解促進などに多大な貢献があったと認められる個人や団体に対して贈られるもので、今回は3個人2団体が表彰されています。

オイスカは、1981年に同国初となる研修センターを設立し、農業を中心とした青年育成に取り組んできました。センターでは正規の研修生のほか、大学や高校からの短期研修生なども受け入れ、これまでに3000名以上が巣立っています。研修を修了したOB・OGらは、スカブミ県とカラングニアル県にある研修センターを拠点に、センタ

ーのスタッフや、緑化、地域開発プロジェクトの調整員となって活躍するほか、自ら農業を営むなど、研修で得た技術を活かして、地域の発展や環境保全に幅広く貢献しています。

今回の表彰は、そうした人材育成や農業を通じた農村開発など、長期にわたる草の根レベルの取り組みが日尼両国の橋渡しとなり、相互理解に貢献したとして評価されたものです。今後、双方の日程調整の上、授賞式が行われる予定です。



海外 フィリピン

地域に根差した養蚕普及を目指して 4州を対象にN連プロジェクト始動

3月31日、在フィリピン日本大使館において、日本の外務省N-GO連携無償資金協力（以下、N連）による「養蚕普及・拡大による伝統文化の復興、発展及び地域住民の生活向上支援事業」の贈与契約署名式が行われ、養蚕拡大普及への新たな挑戦がスタートしました。これは、フィリピン国内における生糸の供給不足や近年の世界的なインフレ、新型コロナウイルス蔓延などによる農村住民の生活悪化を受けて、

21年実施のN連「ネグロスシルク事業を基盤とする養蚕普及及全国展開支援事業」で養蚕農家育成や良質な繭生産に一定の成果が認められた地域を含む、ベンゲット州、ヌエバビスカヤ州、東ミサミス州、西ネグロス州の4州です。

科学技術省所管繊維研究所（PTR）からオイスカに協力が要請されたもので、さらなる養蚕普及拡大とともに農村住民の生活向上を目的としています。対象地は、19

前回N連事業では、コロナ禍による移動制限などで計画の一部を変更せざるを得ない状況もありましたが、本事業では農家育成研修やPTRとの共同セミナー、蚕飼育のための施設・桑園整備、各州代表者の訪日研修による養蚕開発リーダー育成など、実地での取り組みを主体とした活動となっています。また東ミサミス州では、農家の参加意欲を高めるため、



ミンダオ州立大学と連携して桑以外にも野菜生産量、生産高の向上を図る取り組みを計画しており、より地域に根ざした養蚕普及を推進していく予定です。

国内 地球環境を考えるトークイベント2024春

タイとインドネシアの小学生が来日 日本語で森づくりの取り組みを発表

5月19日、大阪市内の会場とオンライン配信でトークイベントを開催し、「子供の森」計画（以下、CFP）に参加するタイとインドネシアの子

ども4名と、プログラムを調整しながら指導にあたる現地スタッフ2名が「小さなヒーローたちの森づくり」と題して発表を行いました。

6名は、CFP子ども親善大使招聘事業として同15〜22日の日程で来日し、北海道、大阪府、兵庫県を訪問。日本の森や防災などについて学べる施設を視察したほか、小学校での交流やCFP支援企業での活動報告を行い、今回のトークイベントは、親善大使



来日前に特訓した日本語で自己紹介する親善大使

の来日に合わせて、広くCFPの活動を知っていただく機会として実施されました。

当日は会場、オンライン合わせて約100名が参加。はじめにタイの親善大使から、近年乾季が長期化する中、気温が連日40℃を超え、池や川の水がなくなったり、地域に生息する野生動物が減少している現状が報告され、これらの課題に直面しながらもCFPの森づくりや環境教育を通じて人々が森の恵みを受けられるようになり、地域に活動が広がっている例も紹介されました。また、インドネシア

の親善大使からは、各地でさまざまな課題を抱える中、海面上昇から海沿いの学校を守るマングローブ植林や、深刻化するゴミ問題に対して積極的なリサイクル活動や地域に環境保全を訴えるキャンペーンを行うなど、各地のニーズに合わせた多様な取り組みについて報告されました。

CFPはもともと学校を拠点とした取り組みでしたが、現在は子どもたちが学びを家

庭に持ち帰り、さらに地域へ活動の輪が広がることを目指しています。後半のトークセッションでは、その過程に沿う形で、子どもたちが活動にどのような向き合い、家族と共有しているか、また活動を地域に広げていくための努力やその難しさなどが、子どもたちやスタッフの口から語られました。

参加者からは、「活動の様子や森づくりに対する想いが伝わった」「子どもたちの生き生きとした表情と一生懸命準備したのであろう日本語での発表に感動した」などの感想が寄せられ、取り組みと併せて、子どもたちやスタッフの想いも届ける機会となりました。



イベントはオイスカ本部と関西支部の共催で実施され会場には42名の参加者が集まった

トークイベント
アーカイブ動画は
こちら！





海外での植林ボランティアも積極的に展開。「子供の森」計画参加校も訪問(フィリピン)

1995年に発足した山梨県支部は、来年30周年の節目を迎えます。全国の会員の皆さまには、「富士山の森づくり」活動へのご参加や、各地

での森のつみ木広場実施など、同じ志でオイスカの活動に取り組んでいただいていることをうれしく思います。

会長就任以前、私は自治体の行政に関わっていましたが、その頃から山梨県内における支部の活動は聞いていました。はじめは森林整備を積極的に行う団体という認識でしたが、就任後には改めてその活動の幅広さを実感しています。またオイスカの活動は、現場のニーズを的確に掴んで実施されていると感じます。例えば、民有林が行政予算で整備できずに荒れてしまい、公益的機能を失っていることがよくあります。オイスカはそうした状況にある民有林の整備ニーズを把握し、企業と協働した森づくりによって賄っていることが特徴だと思います。

そして今、その活動に山梨県内の行政も注目してくれています。森づくりにとどまらず、木材の循環を促すための県産材活用においては、県や市町村行政からも、オイスカやオイスカが関わるNPO法人「木netやまなし」に多くの相談が寄せられています。これはひとえに、これまで30年にわたり本部や他支部の皆さまと連携しながら、県内で地道にオイスカの理念を普及するための事業を継続してきた成果だと考えています。



「富士山の森づくり」活動には、毎年多くのリピーターも参加



山梨県支部 会長
宮島 雅展

とはいえ、支部の運営は全てが順調なわけではありません。事業採算性を問われる中、企業ニーズをやみくもに受けるのではなく、常にオイスカ理念と照らし合わせて、どの事業を推進することが持続可能な循環型社会の構築に貢献できるか、ということを考えています。

全国のオイスカネットワークを通じて、会員の皆さまと連携できることを楽しみにしています。豊かな山、美味しい水、そしてオイスカの理念を推進する事業を体験し、ぜひ山梨にお越しください。

支部概要

山梨県支部は、1993年に県内のロータリークラブのメンバーが中心となって立ち上げた世話人会を基盤に、95年、正式に支部として発足しました。現在の会員数は、81件(法人50、個人31)です。

フィリピン、タイ、ベトナム、モンゴルなどでの植林事業や、衰退した学校林の復興、首都圏の企業が行う森林整備のコーディネートといった国内の森づくりに努めるほか、整備された森林から産出される木材を有効活用するため、従来の森のつみ木広場に加え、木のおもちゃ広場の開催など、木育活動にも力を入れて取り組んでいます。

オイスカ
便り

全国の支部や支援組織を
ピックアップして紹介します

今回は

山梨県支部

オイスカ理念に沿った循環型社会の構築
山と森からの宝物を活かして

富士山・南アルプス・八ヶ岳
名山ぞろいです！

近況

REPORT

森林整備と木育の両輪で循環型社会を

山梨県支部では、森林整備と木育の二つの事業を両立させていくことが、私たちの目指す「オイスカ理念に沿った循環型社会の構築」そのものと考えています。

100年の森づくりを掲げる「富士山の森づくり」は、



三菱自動車工業(株)によるボランティア。健全な森づくりのための整備作業を実施(早川町)

今年18年目を迎え、多くの会員の皆さまと共に植えた広葉樹が大きく成長しています。

また各地で企業との協働による森づくりが進んでおり、現在、山梨市でのライオンの森(ライオン(株)や、甲州市・オルビスの森(オルビス(株))、早川町でのパジェロの森(三菱自動車工業(株)、丹波山村での東急ホテルズ・グリーンコインの森(東急ホテルズ&リゾーツ(株)、道志村でのプロネクススの森(株)プロネクス)と、埼玉県秩父市での本田技研工業(株)による森づくりの計6カ所での森林整備を行っています。

また木育事業では、子どもたちに森の大切さや木の温かさ、心地よい手触りなどを理解してもらうため、20年度から山梨県産材を使用した木のおもちゃ開発に着手し、現在その数は30種類を超えました。普及のために、コンセプトブックの作成や、森のつみ木広場、木育広場の開催も行っています。昨年は県内外で、自治体や企業・団体などが主催するイベントへの参加、幼稚園・保育園・小学校などからの依頼など26カ所(延べ33日)



バリエーション豊かな木のおもちゃ(山梨市木育広場)

で開催しました。

直近では6月21日、25日に山梨市の保育園2カ所での森のつみ木広場を開催しました。子どもたちはつみ木での作品づくりやドミノ倒し、マゴト遊びなど思い思いの発想で遊びを展開しており、先生方も「五感を使って遊んでいることがわかった」「木の香り、木のパワーを感じた」と木育の意義や木の魅力を体感していただくことができました。

今年もすでに多くの開催依頼を受けている状況で、ご要望にお応えすべく計画を進めているところですよ。県外でも地元の支部の皆さまと一緒に考えていますので、ぜひお声がけください。

天に選ばれし、名水の地！(山梨県HPより)

昨年の本誌11月号で、静岡県支部さまより「富士山自慢は山梨に譲る」と温かいお言葉をいただきましたが、やはり富士山は日本の富士山です。やれ静岡だの山梨だのはやめましょう。

ということで、今回はおいしい「水」をご紹介します。(一社)日本ミネラルウォーター協会によりますと、昨年のミネラルウォーターの都道府県別生産量で山梨の割合は35.9%。2桁のシェアは山梨のみで、断トツの1位です。富士山のほか南アルプス、奥秩父、大菩薩など県内どこに行っても名

水の宝庫です。皆さんも一度は山梨のおいしい水をお飲みになったことがあるかと思います。また、山梨は水道水もミネラルウォーターに負けずに(以上に?)おいしく、東京都と横浜市の水源地があるため、都内や横浜の水道水にも、山梨の水が流れています。

ちなみに、私が今までに飲んだ水の中で一番おいしかったのは、次男の部活のお付き合いで訪れた白州中学校(北杜市)のグラウンドの片隅にある水道水です。あれはおいしかった。

山梨県支部事務局長 佐野克巳

おらが
自慢!

早川
パジェロの森の
つり橋から!



〈現場レポート〉

フィリピン

「子供の森」計画の現場を歩く

日本には1万4125の島があるというが、フィリピンも7641の島を持つ国である。

首都マニラがあるルソン島の最北西部、

アブラ州、南イロコス州で進められている

オイスカ「子供の森」計画（CFP）視察のため、

3月上旬、瓜生泰則会長ら、活動を支援している

全国化学労働組合総連合（化学総連）の幹部3人、

オイスカの吉田俊通GSM担当部長と

ともに現地を訪れた。

（文 オイスカアドバイザー 小林省太）

黒板に算数の数式が残っている。5年生の授業だ。

1030-50=940?。「時間でしよう」と、瓜生泰則さんが

教えてくれる。なるほど、10

時30分に学校に着きました。

家を出たのは50分前です。何時に出たのでしょうか?。」とい

った問題なのだろう。

6年生に好きな科目を聞いた。女の子たちが次々に

「math! (算数)」 「math!」と元

毎日落ち葉を

コンポストに入れる

タピン小学校はフィリピン

気よく答えると、男の子がと

ぼけた顔で「recess (休み時間)」。

どっと沸いた。しっかりと

りした女子とクラスで笑いを

とろうとするピエロ役の男子

いまは分からないが、昔なら

日本の小学校にもよくあった

懐かしい光景である。

のルソン島北西部・アブラ州の山あいにある、幼稚園と小学校1〜6年をあわせて108人の小さな学校である。子どもたちの年齢は日本の幼稚園児、小学生とほぼ同じだ。

小学校を回ると、児童だけでなく先生の英語力にも差があることがわかる。多言語国

家フィリピンの公用語は英語とタガログ語だが、アブラ州

で使う日常語はイロカノ語。

Profile

小林 省太

（こばやし・しょうた）

1955（昭和30）年、東京生まれ。東京大学文学部卒。日本経済新聞社入社。ウィーン支局長、パリ支局長、文化部長などを経て日本経済新聞社論説委員兼編集委員。退職後、公益財団法人オイスカのアドバイザー



成長した学校林は格好の遊び場所でもある（アブラ州キンマラバ小学校）



先生と児童も普段はイロカノ語で話している。タガログ語とイロカノ語は相互に理解できないというから、公用語二つをあらたに勉強する小学生

は大変だ。コロナで学校に通えなかったことが追い打ちをかけ、言葉の習得にも悪い影響を与えた。

タピン小学校では先生も上級生も英語をよくしゃべった。この学校は1991年に「子供の森」計画に参加。敷地内には150本ほどの学校林が育っている。林は蛇が出るから「メイ・ティムブレーザ校長、53）、簡単なフエンスで仕切られているが、校舎のわきにも昨年に植えたカラマンシー（スタチに似た実がなる柑橘類）の苗があった（写真1）。

1：昨年にタピン小学校校庭に植えられたカラマンシーの苗。ヤギなどに食べられないように囲われている（奥は「子供の森」計画でできた森、右はデルフィン所長）

2：右が落ち葉をためる「コンポスト」。左は「燃えるゴミ」（タピン小学校）

6年生が何度も口にしたのが「Goodpost」という言葉である。「毎朝森を掃除して落ち葉を集め、コンポストに入れるんだ。」「毎朝？ 週に一回ぐらいだろ？」と私。「違う！ 毎日やってるよ」「コンポストはどこ？」「あそこ。見に行こう」といった調子だ。

ここに落ち葉をため、腐らせてからたい肥として土に戻す。そばにはBOTE（瓶）、LATA（缶）、PLASTIC（ペットボトル）と大きく書かれた分別用のかごもあった（写真2）。

「コンポスト」はアブラ州のムデイト小学校（幼稚園児、小学生142人）にもあった。「落ち葉は放っておくと蚊の発生源にもなる。コンポストでたい肥にすることは環境天然資源省も推奨しています」とホセリット・タバダイ校長代理（48）。ただ、上級生が集めた落ち葉をすぐ焚火にして燃やしてしまい、地面に掘ったコンポストはほぼ空っぽ。これにはタバダイさんも苦笑いである。

見て回ったほとんどの小学校の学校林は順調に育っている。いま大切なのは、森をつ

くること自体より、森をどう活かしていくかのように思えた。一つが「コンポスト」のような環境教育。もう一つがより強い地域とのつながりである。

オイスカアブラ農林業研修センターのデルフィン・テソロ所長（65）は「校長に時間をもらって「小学校の中学生向けに30分の「出前授業」をしている。木は何の役に立つんだろ？」と質問を投げかけると、まず「日陰ができる」と答えが返る。「ほかに

は？」。しばらく考えて「家をつくる材料になる」「もったないかな？」。もうなかなか出てこない。そこで、生き物に必要な酸素をつくったり、温暖化の原因になる二酸化炭素を吸ったり、水を蓄えて土砂崩れを防いだりもする、と話せば、「みんな『木を植えた！』と言いますよ」とデルフィンさん。同じように森の役割を子どもに教えるタバダイさんも「教材として学校林はとても大切です」と強調した。

■今回訪問した「子供の森」計画参加校



マングローブは 見たこともなかった

子どもの環境への関心を発展させていくのがコンポストづくりなどなら、森を活かすために学校から地域へとネットワークを広げていく活動もまた、大きな役割を担っている。タピン小学校では、校内に植えた苗が野生のヤギに食われてしまうことから、父母が周囲に金網のフェンスを張っていた。「金網は公費で賄いましたが、作業費は出せないでボランティアです。いつも予算不足なんです」とティムブレーザさん（写真3）。

保護者や地元の人々の協力が日々の運営に欠かせない（写真4）。

ムデイト小学校でも、長期休暇の前には父母や地域住民も集まって児童とともに校内の掃除や学校林の補植、手入れを行う。昨年は台風で被害を受けた木をテーブルの脚や椅子につくり直した。「倒木は最大限活用しています」とタバダイさんは誇らしげである（写真5、6）。

地元とのつながりが発展したのが地域の森。ルソン島北西部、南シナ海に面した南イロコス州にあるマングローブ林は大きな成果だろう。デル

フィンさんの指導で、近くにあるグルダラット小学校（幼稚園児、小学生81人）の児童や地元の人たちが海岸にマングローブを植え始めたのは99年。ロメディオス・セヴィリエハさん（75）は「初めての時はよく覚えていますよ。子どもたちはもちろん、私もマングローブは見たこともなかったのですから」と懐かしむ。今は地元コミュニティの役員をしている彼女は、15年前までダルダラット小学校の教師だった。「もう密になりすぎで中に入れないし、蛇が出るので子どもたちはごみ拾いもできないですけれど」とセヴ



3: タピン小学校のティムブレーザ校長
4: フェンスをつくるボランティアの保護者たち（タピン小学校）
5: 台風で倒れた植栽木とムデイト小学校のタバダイ校長代理

《活動実績》

（1991年～2024年3月末）

■ 植林本数
2,984,494 万本

■ 植林面積
1,112.24 ha

■ 参加校数
1,189 校

■ 活動を展開した州の数
15 州



1992年

苗木が立派な
森へと成長！



2012年

\\ フィリピン //

「子供の森」計画の 取り組み

「子供の森」計画（以下、CFP）の始まりの地、フィリピンでは、1991年に17校から活動がスタートしました。翌92年には同国政府とCFPに関する基本協約を締結し、以降5年ごとに更新。現地スタッフや多くのOB・OGが学校や地域と信頼関係を築きながら献身的にCFPを推進し、これまでの約30年で参加校が1100校を超えるほどの広がりを見せています。また、学校での森づくりや環境教育のみならず、家族や近隣住民を巻き込んだ地域の森づくりへと展開するなど、持続可能な地域づくりへと発展している点が評価され、現在は環境天然資源省や農業省、教育省など3省1局との間で協約を締結しています。

今では世界37カ国で取り組まれているCFPですが、フィリピンの活動は、子どもたちの森づくりが地域の森づくりプロジェクトへの基盤となる先駆的な事例となっています。

イリエハさん。海岸のマングローブは台風や津波の被害の軽減に役立つだけでなく、経済的なメリットをもたらしたことが大きいという。

「貝やカニがすみつき、魚も捕れます。小魚を8カ月養殖すると3尾で1キロぐらいに育ち、キロ400ペソ（約1100円）になります。漁業で生計を立てる人たちの収入源になっています。お金持ちにはなれなくてもね」（写真7）

アブラ州の山間部にも、オイスカが計画を立てて地元の人々や学校の保護者、場所によっては小学生や中学生も一



6:教室の椅子の一部は倒木を加工したもの(ムデイト小学校)
7:マングローブ植林の思い出を懐かしそうに語るセヴィリエハさん(右端)
8:マングローブ林で捕れた小魚はここで8か月間育てられる(奥がマングローブ林)

緒になって植林を進める山が何力所がある。ただ、学校林に比べて面積は広い傾斜地だ。スコップが簡単に入らない岩山もあって条件は厳しい。「農作物の収穫のとき人々はお互い助け合います。そういう意識を森づくりにも活かしたい」とデルフィンさんは話すが、過剰伐採などで失われた広大な「裸の山」を目の当たりにすれば、人手もお金も時間も足りないことはすぐわかる。

CFPはオイスカで一部から「ふりかけ」と言われているらしい。ほかの大きなプロジェクト(ご飯)があつてこ

その存在だからと、あまり重要視しない人もいる。しかし「小規模で始められ、結果として大プロジェクトにつながる可能性がある」と担当職員の諸江葉月さんは話している。

EEP(「環境教育II ENVIRONMENTAL EDUCATION」計画)、そしてデルフィンさんというところの第二のCFP(「地域の森II COMMUNITY FOREST」計画)という、より長期で難しい活動を進めるため、台風や地震などの災害が多発するこの地域に根づいた「子供の森」が果たしている役割は小さくない。

CFP モデルケース発掘調査

—災害や貧困に立ち向かうアブラ州の取り組み—

現場レポート
background

フィリピン北部は見渡す限りのはげ山が広がり、雨季は台風による洪水や風害、土砂崩れ、乾季は無数の山火事や干害、さらに地震も頻発する国内有数の貧困地帯です。この過酷な環境を少しでも改善するため、デルフィン所長が中心となり、アブラ州ではこれまで100校以上でCFPに取り組んできました。

一方でCFPは開始から30年以上が経ち、多くの国で活動が展開され、成果が生まれる一方、限られた予算や人材では、増え続けるニーズに応えきれない状況が生まれています。コーディネーターの高齢化や活動のマンネリ化といった課題もある中、効果的に事業を進めるため、地域や活動分野を重点的に定めていく必要があると考えています。CFPでは、2030年までの10ヵ年計画の中で、モデルケースの発掘・応援を掲げ、蓄積された知識や経

験を地域や次世代に伝えていくことを目指しており、植林をはじめとする活動ニーズが非常に高く、実績のある同州地域をモデルケースのひとつとするべく現在調査を進めています。今回の小林氏の取材は、その一環で行われました。



©Buclod MDRMO, Junalyn Balingoay

歴史さんぽ

—オイスカ—

Vol.11

いつの時代も「農業と規律」が基本！
マレーシア・サバ州 KPD/OISCA 青年研修センター

写真から伝わる
さまざまな思いに
フォーカス！



研修生による
田んぼの草取り
(ケニンガウ研修センター)



1970年代

今も変わらない
田んぼの草取り風景
(KPD/OISCA 青年研修センター)



2024年

マレーシア・サバ州のテノムにある KPD/OISCA 青年研修センターは、同州政府の機関である農村開発公社 (KPD) とオイスカが共同で運営しており、毎年50名ほどの青年たちが規律正しい寮生活を送りながら農業を学んでいます。

同センターの前身となるケニンガウ研修センターが完成したのは1977年10月のこと。同年に相次いで海外に開所した3つの研修センターの一つとして本誌では次のように取り上げています。

「サバ州の州都コタキナバルより東に約200km 内陸に入ったケニンガウという高原の町にも研修センターができ

た。研修はサバ州公共機関と共同で行っているものの、オイスカの役割は研修生に対する勤労精神と規律の訓練である（一部抜粋）」

地域の発展を担う勤勉な若者の育成をしていると評判が広がり、入所を希望する若者が増加。高まる要望に応えるには手狭となったことを受け、89年6月に第二センターとしてテノムに現在のセンターが開所しました。

ケニンガウからテノムへと研修の場が移り、35年もの時が経ちましたが、オイスカは今もこの地で青年たちを対象に規律訓練を行い、農業技術を伝え続けています。



外はカリッ
中はうま味
たっぷり！



インドでは
揚げてつくりますが、
ウズベキスタンでは
窯で焼きます！

ウズベキスタンのおにぎり!? サモサ

ウズベキスタンのローカルフードの一つであるサモサ。家庭ではもちろん、レストランやカフェでは必ずと言っていいほどメニューに登場します。小麦粉でできた生地で具材を包み、形を整えてオーブンで焼いて作ります。具材は、牛肉や玉ねぎ、カボチャ、じゃがいも、ほうれん草などバリエーション豊か。外はカリッと香ばしく、中は具材のうま味たっぷりですっきりとしています。味付けは塩と香辛料とシンプルで、素材の味が楽しめます。また、サモサはご飯やおやつ、ホームパーティーで欠かさず食べられる定番の品でありながら、お店や家庭によって形や味、食感が違うため、「お気に入り」の味を探す面白さもある料理です。

オイスカの研修生として訪日経験のある現地スタッフによると、「サモサは日本のおにぎりのようなもの！」とのこと。誰もが知っていて、気軽に作って手軽に食べられ、加えて、安くてバリエーションが豊かということでしょう。ウズベキスタンを訪れた際には、ぜひ食べ比べを楽しんでみてはいかがでしょうか。



小さなサモサの形は餃子にも似ているかも……？



出典：丈山苑公式HP (<https://jozanen.com/>)

FAMOUS PLACE

お！ススめ
OISCA

国内外のオイスカスタッフから、さまざまなジャンルの「オススメ」をご紹介します！

愛知県安城市の名所 丈山苑

愛知県安城市和泉町中本郷180-1 / 開苑時間：午前9時～午後5時



丈山苑は、江戸時代初期に活躍した安城市出身の文人、石川丈山が晩年を過ごした京都の詩仙堂をイメージして造られました。すばらしい和風庭園を観ながらゆっくりと抹茶を楽しむことができます。入場料100円、抹茶&和菓子が400円とリーズナブルなところもポイント。疲れたとき、時間を忘れてのんびりしたいときにおすすめです。

(中部日本研修センター M)

2024オイスカ夏募金
ご協力お願いします

6月14日から実施している「2024オイスカ夏募金」に多くの皆さまからご支援をいただき、感謝申し上げます。地球の温暖化が進み、生物多様性の減少や山火事の頻発などへの対策の必要性が高まる中、「住み続けられる未来」を実現するため、これからも国内外の現場スタッフと共に諦めず、地道に活動を続けてまいります。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

■期間 6月14日(金)～8月23日(金)

■使途 オイスカの公益事業全般

夏募金専用
サイトはこちら！



あなたの植林の思い出写真
大募集！

- ・泥で転びそうになったとき、手を取ってくれたあの子との思い出。
 - ・言葉はわからないけれど、なぜか楽しかった村人との思い出。
 - ・10年前に植えた木が大きく育っていてびっくり！
- など、あなたの植林の思い出を写真とコメントでお寄せください！

- ご応募いただくもの：写真、その写真の思い出100字程度、
- 応募方法：メール（gsm@oisca.org）でお送りください

※いただいた写真とコメント、お名前はホームページやSNSで紹介させていただきます。お名前の掲載が不可の場合はニックネームをお書きください。

2024オイスカ夏募金 (募集期間: 6月14日～8月23日)

OISCA

ともに、つなぐ

「住み続けられる未来」を実現するため、これからも国内外の現場スタッフと共に諦めず、地道に活動を続けてまいります。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

振替払込請求書受領証

00	001108	452257	001108	452257
公益財団法人	オイスカ	公益財団法人	オイスカ	公益財団法人
名称	オイスカ	名称	オイスカ	名称
住所	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1	住所	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1	住所
代表者	代表取締役 佐藤 隆	代表者	代表取締役 佐藤 隆	代表者
口座	口座番号 001108 口座名 公益財団法人オイスカ	口座	口座番号 001108 口座名 公益財団法人オイスカ	口座
金額	金額 452,257円	金額	金額 452,257円	金額
印	印	印	印	印

クラウドファンディング ご支援ありがとうございました！ 森を守ることは、生活と文化を守ること。 タイの森再生プロジェクト



READYFOR
クラウドファンディングサイト

●寄附総額 2,750,000円 ●寄附者 196人

4月8日から5月22日までの45日間で実施した、タイ北部チェンライ県マイチャルーン村の森と水を取り戻し、住民の生活を守るためのプロジェクトへのクラウドファンディングにご支援いただきありがとうございました。

第一目標の200万円を達成し、196人も多くの皆さまから275万円のご支援をいただくことができました。ご支援くださいました皆さま、SNSでの呼び掛けやシェア、いいね！で応援してくださいました多くの皆さまにお礼申し上げます。

春日智実(タイ駐在代表)

クラウドファンディングで、これから森づくりへの一歩を踏み出すマイチャルーン村の村人を応援してくれる仲間ができました。普段の森づくりは毎日汗にまみれ、ドロドロになり、山の斜面で危険を伴いながらの地道な活動です。暑さや雨、山林火災との闘いなど、そこには想像以上の過酷さが待っており、大勢でやる植林イベントのような華々しさはみじんもありません。そんなときに応援してくれる仲間のことを思い、自分たちは一人じゃないと鼓舞されるのです。まずは第一期として5年間で32haの植林に取り掛かります。今後の活動は、READYFORサイトの「活動報告」で報告していきます。これからも応援をよろしくお願いいたします。



スラポン・アノマ村長

ご支援本当にありがとうございました。私たちの村の森づくりに遠く日本からこんなにも多くのご支援をいただけたこと、そして温かな励ましのメッセージもたくさんいただいたことに、心から感謝しております。皆さんが私たちの村の森づくりに共に取り組む気持ちでいてくださっていることが、とても嬉しいです。私たちはこれからみんなで力を合わせて、精一杯頑張っていきます。これからも応援よろしくお願いいたします。

ご支援ありがとうございます！

新会員の紹介

新しく会員になられた方は次の通り。
(2024年4月1日、本部登録済分。順不同、敬称略)

■特別法人

【神奈川県】合同会社中研トラス
【静岡県】株式会社アジアス【福岡県】株式会社アーチ電工

■維持法人

【東京都】オリエンタル白石株式会社
【ブルーインベーション株式会社】
【労働労連】愛知県【有限会社】
なめ工業【香川県】香川日野自動車株式会社

■維持個人

【山形県】栗原ベルナデス【香川県】
岸川俊大

寄附

2024年3月1日～4月30日まで
にいただいた寄附は次の通り。
(順不同、敬称略)

●COSMOエコ基金／フィリピン
中部ルソン自然林再生プロジェクト
とパプアニューギニア熱帯雨林
保全プロジェクトに710万
1377円

●エプソン販売株式会社／海外開
発協力事業に210万円

●CKD株式会社／海外開発協力
事業と「海岸林再生プロジェクト」
と「子供の森」計画に合わせて30
0万円

●新倉和歌子(東京都)／東ティモ
ール研修生受け入れに200万円

●株式会社九電工／西日本研修セ
ンターワンコイン・サポートプロ
グラムを通じて人材育成事業に
147万7500円

●前田建設工業株式会社／「子供
の森」計画に100万円

●株式会社ジェーシービー／海外
開発協力事業に100万円

●ロジスティード株式会社／「子
供の森」計画に100万円

●一般社団法人北海道CGCみど
りとこころの基金／啓発普及事業
に80万円

●KDDI株式会社「キボウのカ
ケハシ」／富士山の森づくりに63
万7890円

●オイスカ国際活動促進福岡県議
会議員連盟／人材育成事業に60万
円

●オイスカチャリティゴルフ実行
委員会(福岡県)／人材育成事業に
54万8126円

●エイ・ワン少額短期保険株式会
社／海外開発協力事業と「子供の
森」計画に合わせて50万2153円

●杉井恭子(北海道)／海外開発協
力事業に50万円

●三菱自動車工業株式会社／「パ
ジェロの森活動」と「子供の森」計
画に合わせて42万円

●三菱自動車STEP募金／「子
供の森」計画に22万円

●株式会社長門屋商店／「子供の
森」計画に39万9928円

●株式会社静岡銀行／啓発普及事
業に38万1944円

●オイスカ坂出推進協議会／啓発
普及事業と人材育成事業に合わせ
て36万5000円

●東芝労働組合府中支部／「子供
の森」計画に30万円

●ハートネット21／海外開発協力
事業に30万円

●丸真株式会社／「子供の森」計画
に24万4367円

●土谷紀明(北海道)／海外開発協
力事業に20万円

●住友化学労働組合／「海岸林再
生プロジェクト」に20万8680円

●株式会社ヤクルト本社／「子供
の森」計画に12万9187円

●仙台トヨベット株式会社／「海
岸林再生プロジェクト」に29万9
985円

●住江織物株式会社／海外開発協
力事業と「子供の森」計画に合わせ
て12万6000円

●株式会社宇治川商店／人材育成
事業に11万907円

●安達寿夫(北海道)／海外開発協
力事業に10万円

●株式会社フレックスインターナ
ショナル／オイスカの活動に10万円

●株式会社ベストワン／「子供の
森」計画に10万円

●株式会社角産／オイスカの活動
に10万円

●斎藤寛子(北海道)／海外開発協
力事業に10万円

●松井徳之進(静岡県)／海外開発
協力事業に10万円

●池田浩二(岡山県)／海外開発協
力事業に10万円

●北海道イシダ株式会社／海外開
発協力事業に10万円

〈お詫〉

本誌5月号のニュース「人材育成担当責任者
らが訪問 農水産業食糧安全保障省との協約
更新も(4ページ)」の見出し・本文6・7行
目に間違いがありました。
誤 農水産業食糧安全保障省
正 農水・水産・食品産業省
訂正してお詫び申し上げます。

次号予告

OISCA
SEPTEMBER | 9
2024

《特集》
2023年度 年次報告

OISCA 7月号 定価160円
発行人／中野悦子
発行所／公益財団法人オイスカ
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目17番5号
TEL (03) 3322-5161 FAX (03) 3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
編集：OISCA／吉田俊通 倉本有沙
アートディレクション／土肥幹人
デザイン／土肥幹人 坂巻貴行
印刷・製本／株式会社ケープリント

本誌掲載の記事・写真・イラスト
などの無断転載を禁じます。



40℃近い気温の中、州
が制定された日を祝う
記念祭のダンスコンテ
ストに向けて練習して
いた国立アブラ大学の
学生たち。各地区の民
族衣装をまとった彼女
たちは、カメラを向け
ると、みな喜んでポー
ズをとってくれた。
(フィリピン・アブラ州)

今月の表紙写真

Photo by Yoshida Toshimichi



理念 — 人と育む、地球といきる —

Vision

実現したい未来

人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、自然と調和して生きる世界

Mission

日々果たすべき使命・存在意義

私たちは、すべてのいのちが健やかに守られるよう、感謝の心を持つ「人」を育み、いのちの土台となる森づくりや、共に助け合う社会づくりに取り組みます

Value

私たちが大切にしていること

- 互いを理解し尊重
- 土から離れない
- 感謝の心を持ち、へこたれない「人」を育む
- 地域に根差し、住民の「良くしたい」を尊重

Spirit

Visionを達成するために、
私たち一人ひとりが
日々実践する心のあり方

- 先を展望する想像力を持つ
- 着実に一歩ずつ積み重ねる
- 仲間とともにチーム力を発揮する
- 挑戦し続ける
- 経験から学び進化する
- 感謝の心を持つ
- 真摯である
- へこたれない
- 人間味にあふれ、楽しみながら！

公益財団法人オイスカ

オイスカは、会員・支援者の皆さまからの会費や寄附金によって運営されています。「公益法人」としての認定を受けているため、所得税・法人税・相続税、また、条例で定められた自治体では住民税も控除対象となります。受領書をお届けしますので、申告の際にご利用ください。

● 特別会員（年額1口） 法人／10万円 個人／5万円

● 維持会員（年額1口） 法人／4万円 個人／2万円

● マンスリーサポーター 個人／月々2,000円～

※特別会員と維持会員には、会員としての差異はなく、口数とともに、自由にお選びください。

※会員、マンスリーサポーターの皆さまには、広報誌「OISCA」をお届けします。

※新入会年度は、入会月によって納入金額が異なります。

● 「子供の森」計画支援金（年額1口） 個人・法人／5,000円

※海外の支援地域の活動案内（年1回）やニュースレター（年2回）をお届けします。

※子どもたちからのグリーティングカード（年1回）が届きます。

ウェブからも支援のお申し込みができます ▶ <https://oisca.org/>

お問い合わせや資料請求のお申し込みは

公益財団法人
オイスカ〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
<https://oisca.org/>

国内研修センター

中部日本研修センター 〒470-0328 愛知県豊田市助八町助八27-56 ☎0565-42-1101 ☎0565-42-1103
関西研修センター 〒563-0101 大阪府豊能郡豊能町吉川1120 ☎072-738-3699 ☎072-738-3901
四国研修センター 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334
西日本研修センター 〒811-1112 福岡県福岡市早良区小笠木678-1 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

国内支部

北海道支部 〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラリス生活研究センター1F ☎011-867-9684 ☎011-867-9685
宮城県支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎022-265-3350
首都圏支部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5 (公財) オイスカ内 ☎03-3322-5161 ☎03-3324-7111
山梨県支部 〒400-0016 甲府市武田1-2-5 3F ☎055-267-5951 ☎055-267-5951
長野県支部 〒380-0838 長野市東町584 長野県経営者協会総務部内 ☎026-235-3522 ☎026-235-3529
富山県支部 〒939-2226 富山市下夕林280-3 ☎076-468-7120 ☎076-468-7128
静岡県支部 〒431-1115 浜松市西区和地町5815 ☎053-401-3980 ☎053-401-3981
愛知県支部 〒470-0328 豊田市助八町助八27-56 オイスカ中部日本研修センター内 ☎0565-42-1162 ☎0565-42-1103
岐阜県支部 〒503-8603 岐阜県大垣市久徳町100番地 太平洋工業㈱本社内 ☎0584-47-9420 ☎0584-47-9419
関西支部 〒541-0058 大阪府中央区南久宝寺町4-4-1 新御堂ビル ☎06-6244-2366
広島県支部 〒730-0041 広島市中区小町4-33 ㈱エネギアL&B/パートナーズ内 ☎082-242-7804 ☎082-242-4706
四国支部 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 オイスカ四国研修センター内 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334
西日本支部 〒811-1112 福岡市早良区小笠木678-1 オイスカ西日本研修センター内 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

OISCA NETWORK

福島 〒963-0534 郡山市日和田町字大塚50-8 (南根本産業内) ☎024-958-2643 ☎024-958-3741
茨城 〒311-0113 那珂市中央852-9 ☎029-298-2539 ☎029-298-2539
神奈川 〒231-0003 横浜市中区北仲通3-33 関内フューチャーセンター ☎080-5016-2584
三重 〒510-0958 三重県四日市市小古曽1-1-7 中村建設㈱内 ☎059-345-1101 ☎059-345-0745
奈良 〒630-8444 奈良市今市町53-6 ☎0742-63-6277 ☎0742-63-6277
岡山 〒700-0011 岡山市北区学南町2-6-11 PORTA美容室内 ☎086-252-3027 ☎086-252-3027
徳島 〒770-8555 徳島市寺島本町東2-29 四国電力徳島支店総務課内 ☎088-656-4593 ☎088-656-4511
愛媛 〒790-0924 松山市南久米町乙24-84 ☎070-8524-0349 ☎089-948-8682
高知 〒780-0870 高知市本町1-6-24 高知商工会議所総務企画部内 ☎088-875-1177 ☎088-873-0572
佐賀 〒840-0826 佐賀市白山2-1-12-4F ☎0952-28-1368 ☎0952-28-1368
長崎 〒858-0908 佐世保市光町109 ㈱堀内組内 ☎0956-47-2127 ☎0956-48-5069
熊本 〒865-0055 玉名市大浜町2173-1 丸光グループ本社内 ☎0968-76-2161 ☎0968-76-2162
大分 〒870-0002 大分市浜の市1-3-7 ㈱大地企画内 ☎097-533-2101 ☎097-533-5040
宮崎 〒880-0843 宮崎市下原町227-6 ☎0985-26-5673 ☎0985-26-5673
鹿児島 〒892-0817 鹿児島市小川町15-1 ㈱南日本総合サービス内 ☎099-224-3833
沖縄 〒902-0077 沖縄県那覇市長田2-12-9 セレクション長田101 ☎098-943-2871 ☎098-943-2881